

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Yくまーず未来 三河安城		
○保護者評価実施期間	2025年10月9日 ～ 2025年10月23日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年10月9日 ～ 2025年10月23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動内容を充実させ、また、子どもに合わせた活動をの提供、関わりを行うことで、子どもたちが楽しく来所できている。	子どもの発達年齢や生活年齢、特性、興味・関心に合わせて、それぞれが達成感を得られる内容になるようにしている。 また、子どもに合わせて関わり、「できた」ことを一緒に喜ぶ情緒的交流を大切にしている。	継続して楽しい活動を企画していく。 スタッフみんなが発達の段階や個々の子どもへの理解を深め、子どもの「楽しい」「できた」の気持ちに寄り添った関わりを行う。
2	専門職(作業療法士・保育士・教員など)を中心に子どもを専門的な視点で理解し、必要な支援を行うことができる。	個々が専門的に学びを続ける他、定期的に事業所内で研修を行い、また日々子どもの様子についてスタッフ間で話し合いを行って、スタッフ全員の子どもに対する理解を深め、対応するスキルを磨いている。	個々のスタッフが支援に対する責任をもち、積極的に研修への参加など自己研鑽に励むことを事業所として応援したい。
3	放デイのお兄さん・お姉さんがそばにすることで、お手本にして頑張れたり、時には甘えたりと、幅広い年齢の子から自然と影響を受けることができる。	身近に小学生がいることで小学校のイメージを持ちやすいことを生かして、就学に向け子どもたちの意欲を引き出すように関わっている。 お手本があることで子どもたちが自然と成長することを応援している。	子どもたちが「小学生はカッコいい」「小学校にいきたい」とポジティブな気持ちで就学を迎えられるように、支援をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能事業所であり、児童発達支援の利用児が少なく、なっている。同じ年代の子ども同士の関わりが少なく、同じ悩みをもつ保護者の情報が得にくい。	就学前から継続して利用しているお子さんが変わらず利用を希望しており、就学前の子ども利用希望に応じられていない。	年齢に合わせて活動時間、場所を明示して募集をかけるなど、どの年代の子どもにも必要な支援が届けられる方法を検討したい。 事業所内だけでなく地域とのつながりをもち、それぞれの得意な分野を生かせるよう、広い範囲での役割分担を考えていく必要がある。
2	保育所や他関係機関との連携をより増やしていきたい。	子どもたちが長く生活している家庭や園での様子をより具体的に知ることがより良い支援につながると考えるが、双方ともに他の業務の対応などにより密にやりとりをすることが困難な現状がある。	互いに負担の少ない形でコミュニケーションを取れるシステムなどを検討していく。また、園の先生とのやりとりは間に保護者の方に入ってもらったり、複数の事業所や子どもの話をまとめてするなど効率的な連携の方法の検討が必要。
3	保護者向けの情報発信を増やしていきたい	子どもへの直接支援をはじめとする他の業務に追われており、マンパワーが足りていない。	今年度は保護者の集まりを開催することができた。保護者の方の協力も得ながら継続して開催していきたい。また通信での情報発信もしていきたい。